



関西が目指す将来像、目標及び戦略

～第2回改訂委員会での議論より～

2018(H30)年10月1日

第3回関西広域産業ビジョン改訂委員会 資料

■ 関西が目指す将来像について

◆ 方向性の考え方

- ✓ 関西広域連合の構成団体だけではなく、もう少し広いカテゴリー（2府8県：滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、和歌山県、鳥取県、徳島県、福井県、三重県）で「関西」を捉え、ネットワークを深めることを意識する必要があるのではないか。
- ✓ ビジョンは、コロコロ変えるべきではないと考えるので、将来像については、事務局（案）でよいと考える。
- ✓ ビジョンは、あまり大きく変えてはいけないと考えるが、少し古く感じる表現は改めてもいいのではないか。また、「目指すべき将来像」であるので、少し先を見据えた表現にしてもいいのではないか。
- ✓ 将来像は「アジアとともに成長する関西」の一つだけでいいのではないか。その中に、「多様な人々が活躍する関西」があり、戦略に繋がっていくのではないか。
- ✓ 将来像は3つ並列ではなく、トライアングル型（頂点に1つ、土台部分に2つある構図）の位置づけでもいいのではないか。

第2回 改訂委員会における主な意見

■ 関西が目指す将来像について

◆ アジアとともに成長する関西 ～日本とアジアの結節点～

- ✓ 「アジアの中で輝く関西」という表現のほうがいいのではないか。
- ✓ ビジネスシーンにおいて、どれだけ関西の重みが東南アジアや欧米など、海外から認識されているのか不明な部分がある。どちらかという観光（インバウンド）に特化した戦略を立てて、産業振興につなげるという考え方があるのではないか。
- ✓ 海外のビジネス客は関西にはあまり来ないというデータがあり、改訂ビジョンでは、ビジネス客をどう関西に取り込むのか（どうやってビジネスの場として関西の魅力を高めていくのか）考慮すべき。
- ✓ このビジョンは、20～30年後の関西を展望するものであるので、「アジアとともに成長する」という表現でよいのか。むしろ、欧米からの評価が高まっているので、欧米にも目を向けてはいいかがか。国内企業にとって（マーケットの価値）は、まず東京があって、大きく隔たったその下に大阪があるという位置づけ。しかし、海外からは、大阪は東京とは別の世界（マーケットの価値）であると認識されており、面白いと思ったら企業が大阪に進出する可能性がある。新しい経済成長モデルが関西から生まれる、といったような、今後を展望できる表現にしてはどうか。
- ✓ 都市の成長モデル論から見ると、東京の成長モデルはわかりやすく一極集中。関西の三極構造（大阪、京都、神戸）は、世界的にも面白いモデルであったのに、今は衰退の一途をたどっているが、これからいよいよ関西の新しい都市成長モデルの時代がくるかもしれない。

第2回 改訂委員会における主な意見

■ 関西が目指す将来像について

◆ 東西二極の一極として日本の未来を牽引する関西 ～関西の個性・独自の価値～

- ✓ 東京一極集中は加速している。関西が「東西二極の一極」と言っても、東京は二極という認識はない。
- ✓ 関西の独自性をどう出していくのか。訪日外国人が関西でどういう行動を取っているか（関東など、他地域との違い）を分析することで、何か見えてくるのではないか。
- ✓ いつまでも関西以外の西日本の地域に目を向けず「対東京（東西二極の一極）」を掲げていては、グローバル経済において将来的にたちゆかなくなるのではないか。西日本の中で、九州圏や中京圏とどう連携していくのかなど、関西広域連合の構成団体以外の要素についても考慮すべきではないか。
- ✓ 関西在住の人と、関西在住ではない人では捉え方が異なる場合がある、という視点も必要ではないか。
- ✓ 東京一極集中を関西が解消する、という考え方ではなくて、関西の独自性や個性を伸ばして、アジアに目を向けて、できることをやっていこうと考えるべきで、日本の中で関西も福岡も一つの極となりうる。「繁栄の多極化」ということではないか。
- ✓ 西のネットワークを深化させる中で、新たなビジネスなどが生まれ、結果として西の一極となる、といった表現のほうの方が分かりやすいのではないか。東西二極の一極となることがゴールではなく、ネットワークを深化させるという考え方もあるのではないか。

第2回 改訂委員会における主な意見

■ 関西が目指す将来像について

◆ 多様な人々が活躍・共生する関西 ～豊かで持続可能な生活圏～

- ✓ 全国平均を下回る女性の労働力率を改善させることで、今後も成長することができるのではないか。
- ✓ フルタイムで働くことは無理だが、短時間であれば働きたいと考えている優秀な女性が、短時間でも復帰できるような支援をするなど、多様な働き方を許容する社会にすることが必要。
- ✓ 「多様な人々が活躍」の中には、就業形態の多様化も含まれており、多様な人々が活躍・共生することで、労働生産性が向上する、という意味で、この将来像はよいと考える。
- ✓ 非正規雇用だから正規雇用よりも高い単価で働ける仕組み、フリーランスがもっと社会的に認知されてしっかり稼げる仕組みが必要。
- ✓ フリーランスや外国人雇用で人手不足をカバーできれば、中小企業は現状の規模で事業を継続できる。また、人材の採用・育成には時間と経費がかかるので、中小企業側からすると、一度雇用したら長期間働いてほしいと思うのではないか。
- ✓ 将来像として「多様な人々が活躍・共生する関西」を掲げるのは良いが、実現可能性を考えると、中小企業では、多様な人々（外国人、女性、高齢者など）が活躍するというのは難しいのではないかと感じる。
- ✓ 中小企業が人手不足の中、多様な働き方をする人材を採用するのは難しい。ただ、業務量のピーク時など、企業が必要なときに短時間でも働いてくれる人材とマッチングし、その分の対価を企業がしっかり払うことができれば、企業が負担するトータルのコストは抑えながら、多様な働き方を許容することが可能になるのではないか。

第2回 改訂委員会における主な意見

■ 将来像と目標の実現に向け、関西が取り組むべき戦略について

◆ 戦略（全体）について

- ✓ 人材を土台に戦略1～3を立てており、戦略1～3は、現行ビジョンから大きく変えないということ、最新の変化を反映しているということ、民間含め社会全体でのローカルイノベーションの積み上げがグローバルイノベーションを生み出す、という流れになっているので、大きな枠組みは、事務局（案）でよいと考える。
- ✓ 戦略を実現するためにどのような施策を実施するのが重要ではないか。
- ✓ 戦略1～3は大きさが違うので、並列ではなく、階層構造にしたほうがよいのではないか。最上位に、関西広域連合の全般的な考え方を位置づけて、戦略を示したほうがわかりやすいのではないか。イノベーションには、技術的なものだけでなく、社会的なものもあるので、戦略1が一番上でもいいのではないか。
- ✓ 京阪神の三核構造がエンジンとなって関西圏域全体を引っ張っていくのが大切だと考えているが、地域経済の観点からは、核となっている都市（京阪神）だけではなく、第2層目の都市群も重要。ネットワークとも関連するが、京阪神以外の府県が、巨大核である京阪神と連携することで、全体として成長する。現実的には、京阪神が成長のエンジンではあるが、エンジンが第2層目の都市群とどう連携していくのかも重要な論点。
- ✓ SDGsの考え方（「誰一人取り残さない－No one will be left behind」）を改訂ビジョンの中でも応用してはどうか。関西広域連合の構成団体にとって、持ち出しばかりではない、関西広域連合全体として引き上げる仕組みが改訂ビジョンにあるという構図に、SDGsの考え方を応用できるのではないか。経済規模が大きな府県だけがメリットを受けるのではなく、そうではないところに対する手当ても考えていることを示しておく必要がある。

第2回 改訂委員会における主な意見

■ 将来像と目標の実現に向け、関西が取り組むべき戦略について

◆ 戦略1 関西の先進性を活かしたイノベーション創出環境・機能の強化

- ✓ これから先を見据えて、データサイエンスの重要性や、地方自治体における政策形成能力の向上を考えたときに、イノベーションを引き起こす主体として、地方自治体も考えておいたほうがいいのではないかと。
- ✓ イノベーションには「テクニカル（技術）イノベーション」と「ソーシャル（社会制度）イノベーション」の2つがあることがわかるような表現にしてはどうか。
- ✓ データサイエンスは、現在、すごい勢いで広がっており、ビジネスとしても着目されているところであるので、改訂ビジョンにも反映していただければと考える。
- ✓ 関西の得意分野、強みがある分野はこの分野なので重点的に取り組む、など施策の方向性や、関西広域連合の果たすべき役割を示していただきたい。
- ✓ 広域産業振興局で実施している、域内の公設試における機器利用等に関する割増料金の解消や、「関西ラボねっと」などの取組みをさらに進め、企業の事業化までの総合的なイノベーション創出支援を府県域を超えて実施していただきたい。
- ✓ 関西の先進性・強みについて、これまで取り組んできた分野を引き続き取り組むイメージか、もう少し先を見据えた分野をイメージしているのか。
- ✓ 「関西の先進性を活かした」という表現より、「関西の優位性を活かした」の方がわかりやすいのではないかと。

第2回 改訂委員会における主な意見

■ 将来像と目標の実現に向け、関西が取り組むべき戦略について

◆戦略2 地域を支える中堅・中小企業の成長支援（技術力の強化・海外展開・生産性向上等の支援）

- ✓ 後継者がいないため廃業を予定している企業や人手不足など、中小企業（小規模企業含む）の活力がなくなっている。中小企業の活力を醸成する必要があるのではないか。
- ✓ 中小企業は、やる気があるところと、諦め気味（少なくとも現状維持）なところと二極化している印象がある。後継者が不在なのであれば、市場に任せてM&Aでうまく活かされるような構図になればよい。
- ✓ 事業承継について、日本では、企業の売買マッチングが進んでいない（M&Aが特殊なケースという認識）という特徴がある。アメリカでは、中小企業の売買をするブローカーが多い。日本はまだ「会社を売る」という行為に抵抗がある経営者が多く、企業の売買マッチングは進んでいないが、20～30年後を展望するのであれば、そういう視点も必要ではないか。中小企業を売買することで成長の機会が生まれたり、雇用が確保されたり、事業継続が可能となったり、といった、これまでとは異なる新しい発想を入れてほしい。

◆戦略3 個性豊かな地域の魅力を活かした地域経済の活性化（観光、農林分野等の連携等）

- ✓ 「観光、農林分野等との連携等」の主語は何になるのか。何と観光・農林が連携するのか。
→ 観光・農林以外の産業との連携を想定して記載している。観光、農林については、他の分野局が所管であるが、産業ビジョンにおいては、他の分野局所管の内容についても言及するという意味で記載している。

第2回 改訂委員会における主な意見

■ 将来像と目標の実現に向け、関西が取り組むべき戦略について

◆【関西を支える人材の確保・育成】

多様な人材が自らの能力を存分に発揮し、活躍できる環境づくり

- ✓ 中小企業での人手不足は深刻な状況。求人すると、応募はあるが、企業が採用したい人材（即戦力となる人材）がいない。一方で、就職氷河期に希望どおりに就職できないまま埋没している優秀な人材は、関西にたくさんいる。ただ、ブランクがあり、今すぐ企業の求める人材（即戦力）になれない、また、本人たちも就業に対する不安があるので、再教育が必要。
- ✓ 人材の確保・育成が一番大切であり、これをどういう形で実現するのか、具体的な取組みをどう考えるのかが難しい。「関西を支える人材の確保・育成」は、何らかの形で強調したほうがよい。
- ✓ 産業と人材の育成（教育）は不可分であり、これからますます重要になってくる領域。人材の確保・育成は重要であるという認識はあるが、これまで教育の仕組みと地域を支える人材をつなげる仕組みがなかった。大学も工夫を凝らした取組みを行なっているが、まだ経済界とシームレスには結びついていない。
- ✓ 大学・高等教育機関が、ただ人材供給するだけの教育機関となっており、経済界との連携がうまくいっていないのではないかと感じる。特に、徳島、鳥取、和歌山は人材供給県であり、関西（京阪神）に出て行った人材は戻ってこないのでは、人材の面では、関西広域連合に入るメリットがないのではないかと感じる。
- ✓ 関西から出て行く人がいてもよいが、関西にも人がどんどん入ってくる、また、関西の圏域内での人の出入りがあり、異なる考えを持った人たちをどうネットワーク化するかを意識することで、人口減少社会のもとでの成長戦略が描けるのではないかと感じる。関西でしっかりと人を育てるということを打ち出したほうがよい。

第2回 改訂委員会における主な意見

■ 2040年に関西（広域経済圏）が達成を目指す目標について

◆ 目標

2040年度の関西(広域経済圏)の

- ・経済・産業の国内シェア25%
- ・GRP約1.8倍（2010年度比）の約180兆円

- ✓ 現行ビジョン策定時に、2040年までの長期的なスパンで設定したものであり、引き続き達成を目指すこととし、現行ビジョンのものを維持する方向でよいのではないか。
- ✓ ターゲットイヤーが2040年であるので、直近の経済状況を反映した将来推計等の統計データを確認しておいて欲しい。